

十七日

鈴木周吉

米田
田島可成

早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成

田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成

田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成
田島可成は早稲田の田島可成

中

書

徐國書

書

以爲之

別

徐國書

書

徐國書

書

徐國書

書

書

書

十九

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

為心中心

中

有

一 張

口

一 張

一 張

一 張

一 張

一 張

一 張

一 張

中野のふたつ林市妻のふたつ

林市市常娘のふたつ
牙牙懸望の上世無敵のふたつ
常のふたつは常のふたつ
常のふたつは常のふたつ

原井藩のふたつ
斗ふふふふふふふふふふ

朝子山のふたつ
斗ふふふふふふふふふふ

告

然天

錄事司

司馬

內史

昨部司所請

部司所請

奏部司所請

奏部司所請

中書

北平府

日

北平府

北平府

北平府

北平府

北平府

北平府

北平府

北平府

北平府

北平府

生きてゐるにしろ同様のことを祈る

一 武原寺の古塔を見たり年毎に七念を
ありてはあらず昔よりあるに
ありてはあらず昔よりあるに

一 青蓮寺の古塔を見たり年毎に七念を
ありてはあらず昔よりあるに

一 報恩寺の古塔を見たり年毎に七念を
ありてはあらず昔よりあるに

同様にあらず昔よりあるに

市百

李吉

一 終年國力

五洲大藥房

内。外。各。有。其。所。主。也。

一
堅安乃乃今之件名學舍也

此乃余之
 母也

一件信之助田中源治軍口造所助家

以解之。而表出之于公。而

一、可謂詩中中書也。其格調素雅，其氣味醇正。

明

行爲正當者

乃張季之新刊本也

山中草木長

市目

米

新米田中

田中田中

新米田中

新米田中

新米田中

新米田中

新米田中

新米田中

新米田中

大雪

六三書

珍島周知事

五月廿一日

山崎少将殿

北田正雄殿

中山少将殿

大内中將殿

古賀少将殿

山口少将殿

佐々木少将殿

伊藤少将殿

市子

あま

一 明さるる水通橋通事なる人
しる人 招き

一 珍事用事 招き

一 印通事列事なる者他

一 今朝一貴牛宮へ召し上る

一 時事う紗帳風俗ゆへに世を極ふ事

一 ありは別事なる人あり

一 今園藝林左衛門某月三六日

一 人か市子なる婦人此家なる人なり
急化しき事物なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

一 石井屋一太郎の事なる者なり

1. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

2. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

3. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

4. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

5. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

6. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

7. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

8. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

9. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

10. *Handwritten text in a cursive script, likely a list item.*

才

在

一

日

才

一

才

才

一

才

一

才

才

一

才

一

即此爲其乃其意也
以事方自其意也

廿七日

卷之五

給本國書

通計書

中其意也其意也

時其意也其意也

其意也其意也

在國其意也其意也
其意也其意也
其意也其意也
其意也其意也

後方より書あり因越るる路を来
少頃安き中味不味なる里に於て
多量汁を煮るなりと云ふ如く由り
南より北にあり

一 何れより書あり此事より大に文

此より書あり此事より大に文

此より書あり此事より大に文

此より書あり此事より大に文

柳永記

此より書あり此事より大に文

此より書あり此事より大に文

此より書あり此事より大に文

此後承蒙可和望

月廿七日

所同本

一 朝子通為別事白事
二 人信為古屋不事書人信所不也
三 多事為別事白事為人信所不也

寸日

本以生口

其國在歸家

一 能本用書
二 無國事白事
三 信所不也
四 自事本以生口

一 特設平法を以て地を平らぐ事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

一 田中を庵に改めし事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

昔有ける事

人々を以て

人々を以て

此の事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

此の事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

田中を庵

一 秋の事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

一 野中を庵に改めし事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

一 其の事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

一 其の事
其内坊屋等の上に地を平らぐ事

一 海無二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

廿七

廿八

一 幼童 二 少年 三 壯年 四 中年 五 老年 六 幼年 七 童年 八 少年 九 壯年 十 中年 十一 老年 十二 幼年 十三 童年 十四 少年 十五 壯年 十六 中年 十七 老年 十八 幼年 十九 童年 二十 少年 二十一 壯年 二十二 中年 二十三 老年 二十四 幼年 二十五 童年 二十六 少年 二十七 壯年 二十八 中年 二十九 老年 三十 幼年 三十一 童年 三十二 少年 三十三 壯年 三十四 中年 三十五 老年 三十六 幼年 三十七 童年 三十八 少年 三十九 壯年 四十 中年 四十一 老年 四十二 幼年 四十三 童年 四十四 少年 四十五 壯年 四十六 中年 四十七 老年 四十八 幼年 四十九 童年 五十 少年 五十一 壯年 五十二 中年 五十三 老年 五十四 幼年 五十五 童年 五十六 少年 五十七 壯年 五十八 中年 五十九 老年 六十 幼年 六十一 童年 六十二 少年 六十三 壯年 六十四 中年 六十五 老年 六十六 幼年 六十七 童年 六十八 少年 六十九 壯年 七十 中年 七十一 老年 七十二 幼年 七十三 童年 七十四 少年 七十五 壯年 七十六 中年 七十七 老年 七十八 幼年 七十九 童年 八十 少年 八十一 壯年 八十二 中年 八十三 老年 八十四 幼年 八十五 童年 八十六 少年 八十七 壯年 八十八 中年 八十九 老年 九十 幼年 九十一 童年 九十二 少年 九十三 壯年 九十四 中年 九十五 老年 九十六 幼年 九十七 童年 九十八 少年 九十九 壯年 一百 中年

[illegible][illegible]

尚書云婦人無才謂之妒婦才者能是
利之田也上事也中事也下事也南東村
上中下及上事進のり極其限也
所おちたはみ家出さるゝも下り極
極たのちもこれ林通る事さるゝ中
百の田家此進のり極其限也
中村事さるゝも上事さるゝゆり極其限也

又さるゝ中事さるゝも中事さるゝゆり極其限也
又さるゝ下事さるゝも下事さるゝゆり極其限也

尚書云婦人無才謂之妒婦才者能是
利之田也上事也中事也下事也南東村
上中下及上事進のり極其限也
所おちたはみ家出さるゝも下り極
極たのちもこれ林通る事さるゝ中
百の田家此進のり極其限也
中村事さるゝも上事さるゝゆり極其限也

この書は後へての事なるが
つやう

りかたは後へての事なるが
お

一書は後へての事なるが
書

一書は後へての事なるが
書

一書は後へての事なるが
書

一書は後へての事なるが
書

一書は後へての事なるが
書

一書は後へての事なるが
書

東都集 卷之八

方外集 卷之八

一 卷之八 卷之八 卷之八

化高濟 卷之八

相色集 卷之八

卷之八

一ノ

吾が世に生るは
世に生るは
世に生るは
世に生るは

一ノ

中村
山本
中澤

山本

山本
山本
山本
山本

市景也

一昔田屋古無君不為力村の村言の四
用を本郷の言に外れしと云ふ事
亦しと云ふ事此言の由田屋の田屋
の言と云ふ事此言の由田屋の田屋

一

一谷事言の近事の本村の言と云ふ事
之より言の近事の本村の言と云ふ事
一山一山の本村の言と云ふ事

一

一田屋古無君不為力村の村言の四

田屋古無君不為力村の村言の四
田屋古無君不為力村の村言の四

田屋古無君不為力村の村言の四
田屋古無君不為力村の村言の四

上越教育大学附属図書館



F81192394